

H20. 5. 25 北陸中日 朝刊

# 河北潟浄化へ実験池づくり

## 内灘町と石川高専

環境分野での連携協定を結んだ内灘町と石川工業高等専門学校（津幡町）は二十四日、内灘町役場前庭で河北潟の水質浄化の実験池づくりをした。

内灘町民に親しまれる同潟は汚濁が深刻。町と同校は二十日、共同で環境改善へ取り組みと協定を締結した。

手始めに、役場前庭にある周田約二十㊦の人工池を実験場に転用することにした。

町や同校の関係者八十人が参加。八十出泰成町長が「実験が美しい潟を取り戻す一歩になれば」とあいさつした後、清掃開始。水抜きをして中にたまった藻や落ち葉などを取り除き、トラックで運んだ潟の水を張った。

池には、ザリガニやタニシなども入れて潟の自然環境に似せ、汚れを分解する主役の微生物も投入し

## 「環境への意識高めて」



実験池設置のため、池の清掃を手伝う子どもたち＝内灘町役場前庭で

た。実験は、ポンプで水を循環させ、太陽電池式の噴水で水中に酸素を供給しながら微生物の活動を活発にし

### 役場の前庭

て浄化する仕組み。実験は七月末まで。化学的酸素要求量（COD）を週一回計測し、浄化の過程を確認する。町などは「実験を町民に見てもらい、環境保護意識を高めた」としている。

（網信明）